

石狩市野鳥生息概況調査報告書

(平成8年度)

石 狩 市

調査員 松本正敏 松崎幸恵

目 次

◎ 野鳥生息概況調査区域図	1
◎ 石狩市の野鳥	2
I. 内 陸 部 の 野 鳥	3～9
(1) 市 街 地	3～6
ア. 花川北防風林	3～4
イ. 花川南防風林	3～4
ウ. 発 寒 川	5～6
(2) 生 振・河 川	7～9
ア. 真 勲 別 (マクンベツ)	7～9
イ. 石 狩 川	7～9
ウ. 生 振	7～9
II. 海 洋 の 野 鳥	10～12
(1) 石 狩 浜	10～12
(2) 石 狩 川 河 口	10～12
III. 丘 陵 地 の 野 鳥	13
(1) 高岡・五ノ沢・八ノ沢	13
※鳥類写真・生態集	14～25

野鳥生息概況調査区域図

石狩市管内図



◎ 石狩市の野鳥

石狩市には、森林・河川・海そして内陸部には、防風林・草原という豊かな自然に恵まれ、いろいろな鳥類が身近なところで見られます。

樹林では森林性の鳥類、河川では水渉禽類、海洋では海鳥、草原では草原性の鳥類の飛来が比較的多く見られます。

また、石狩市には、絶滅危惧種（コウノトリ・オジロワシ）、危急種（オオワシ、オオタカ、ハヤブサ、チュウヒ）、希少種（ハイタカ、オオシガ）が飛来している。

I. 内陸部の野鳥

(1) 市 街 地

ア) 花川北防風林

花畔団地の中心を東西に横断する天然林で、幅70m長さ1.3Kmの防風林で、低木で覆われている。

イ) 花川南防風林

花川住宅地を紅葉山砂丘から石狩湾新港背後の海岸防風林まで、斜めに走る防風林です。

森林性の鳥類がよく見られる。

【チドリ目】

シギ科

オオジシギ (夏)

【ワシタカ目】

ワシタカ科

トビ (留) ハイタカ (留)

ハヤブサ科

チゴハヤブサ (夏)

【キジ目】

キジ科

コウライキジ (留)

【ハト目】

ハト科

キジバト (夏)

【フクロウ目】

フクロウ科

フクロウ (留)

【ホトトギス目】

ホトトギス科 カッコウ (夏)

【アマツバメ目】

アマツバメ科 アマツバメ (夏)

【キツツキ目】

キツツキ科 ヤマゲラ (留) アカゲラ (留) コゲラ (留)

【スズメ目】

ヒヨドリ科 ヒヨドリ (留)

モズ科 モズ (夏)

レンジャク科 キレンジャク (冬) ヒレンジャク (冬)

ミソサザイ科 ミソサザイ (留)

ヒタキ科 (ツグミ亜科) ノゴマ (夏) ルリビタキ (夏) アカハラ (夏)
ツグミ (冬)

(ウグイス亜科) ウグイス (夏) エゾセンニュウ (夏)

コメボソムシクイ (夏) センダイムシクイ (夏)

キクイタダキ (留)

(ヒタキ亜科) キビタキ (夏) オオルリ (夏)

エナガ科 シマエナガ (留)

シジュウカラ科 ハシブトガラ (留) ヤマガラ (留)

シジュウガラ (留)

ゴジュウカラ科 ゴジュウカラ (留)

メジロ科 メジロ (夏)

ホオジロ科 アオジ (夏)

アトリ科 アトリ (冬) カワラヒワ (夏) マヒワ (冬)

イカル (夏) シメ (夏)

ハタオリドリ科 ニュウナイスズメ (夏) スズメ (留)

ムクドリ科 コクムクドリ (夏) ムクドリ (夏)

カラス科 カケス (留) ハシボソガラス (留)

ハシブトガラス (留)

ウ) 発寒川

発寒川は、石狩市と札幌市との境界を流れる河川で、河川部を中心にマガモ、コガモ、などのカモ類が、河川付近ではノビタキ等の草原性鳥類が多く見られる。

【カイツブリ目】

カイツブリ科 カイツブリ (夏)

【コウノトリ目】

サギ科 ダイサギ (夏) アオサギ (夏)

【ガンガモ目】

ガンガモ科 マガモ (留) カルガモ (留) コガモ (冬)
ヒドリガモ (冬) ハシビロガモ (冬)

【ワシタカ目】

ワシタカ科 トビ (留)

【キジ目】

キジ科 コウライキジ (留)

【チドリ目】

チドリ科 コチドリ (夏)
シギ科 イソシギ (夏) オオジシギ (夏)

【ハト目】

ハト科 キジバト (夏)

【ホトトギス目】

ホトトギス科 カッコウ (夏)

(2) 生 振 ・ 河 川

ア) 真 勲 別 (マクンベツ)

石狩川河口橋 (志美運河水門) から 1 k m 上流の左岸河川敷は、約 4 5 h a にわたり河湖林で覆われている湿地帯で、ヨシ原、ハンノキ林、ヤナギ林等群生している。鳥類は、草原性の個体数が多く見られる。

イ) 石 狩 川

石狩川下流 (石狩大橋～札幌新橋) では、石狩川堤防嵩上拡張工事に伴い、土砂が採掘して出来た干潟には、種々の水鳥 (ハクチョウ、チドリ、カモ) が見られます。石狩市では、数少ない渡り鳥の休養地となっています。

ウ) 生 振

生振の農耕地には、2つの防風林 (生振筋違防風林、生振基線) が有り、農耕地には草原性鳥類、防風林には、森林性鳥類 (キビタキ、センダイムシクイ、アカハラ) が飛来している。

(真勲別・石狩川・生振)

【カイツブリ目】

カイツブリ科

カイツブリ (夏) ミミカイツブリ (冬)
カンムリカイツブリ (冬)

【ペリカン目】

ウ科

ウミウ (夏)

【コウノトリ目】

サギ科

アマサギ (夏) ダイサギ (夏) アオサギ (夏)

【ガンカモ目】

ガンカモ科

ハクチョウ (冬) マガモ (留) カルガモ (留)
コガモ (留) ヨシガモ (留) ヒドリガモ (冬)
オナガガモ (冬) シマアジ (旅) ハヅロガモ (冬)
ホシハジロ (冬) スズガモ (冬) ホオジロガモ (冬)
ミコアイサ (冬) ウミアイサ (冬) カワアイサ (冬)

【ワシタカ目】

ワシタカ科

トビ (留) オジロワシ (冬) オオワシ (冬)
ケアシノスリ (冬) ノスリ (留) チュウヒ (冬)
ハヤブサ科

ハヤブサ (留)

【キジモク目】

キジ科

コウライキジ (留)

【チドリ目】

チドリ科

コチドリ (夏)

シギ科

キョウジョシギ (冬) コアサシギ (夏) アオアシシギ (冬)

イソシギ (夏) オグロシギ (夏)

ハウロクシギ (旅) タシギ (夏) オオジシギ (夏)

カモメ科

シロカモメ (冬) カモメ (冬) ウミネコ (留)

アジサシ (旅)

【ハト目】

ハト科 キジバト (夏)

【ホトトギス目】

ホトトギス科 カッコウ (夏)

【フクロウ目】

フクロウ科 コミミズク (冬)

【キツツキ目】

キツツキ科 アカゲラ (留) オオアカゲラ (留) コゲラ (留)

【スズメ目】

ヒバリ科 ヒバリ (夏)

ツバメ科 ショウドウツバメ (夏) イワツバメ (夏)

セキレイ科 ハクセキレイ (夏)

ヒヨドリ科 ヒヨドリ (留)

モズ科 モズ (夏)

レンジャク科 キレンジャク (冬) ヒレンジャク (冬)

ヒタキ科 (ツグミ亜科) ノビタキ (夏) アカハラ (夏) ツグミ (冬)

(ウグイス亜科) ウグイス (夏) エゾセンニュウ (夏)

コヨシキリ (夏) オオヨシキリ (夏)

センダイムシクイ (夏) キクイタダキ (夏)

エナガ科 シマエナガ (留)

シジュウカラ科 ハシブトガラ (留) シジュウカラ (留)

ゴジュウカラ科 ゴジュウカラ (留)

ホオジロ科 ホオアカ (夏) シマアオジ (夏) アオジ (夏)

オオジュリン (夏)

アトリ科 カワラヒワ (夏) オオマシコ (冬) ウソ (留)

ハタオリドリ科 スズメ (留)

ムクドリ科 コムクドリ (夏) ムクドリ (夏)

カラス科 カラス (留)

II. 海洋の野鳥

(1) 石狩浜

銭函の海岸から石狩川河口までの20kmにもおよぶ海岸線には、海岸草原とカシワを主とする広葉樹天然林（海岸防風保安林）から構成される。

草原では、コヨシキリ、ホオアカなどの草原性鳥類、樹林では、エゾセンニュウ、キクイタダキ、シジュウカラなどの森林性鳥類が見られる。

(2) 石狩川河口

石狩川河口（砂丘）は、ハマナスの丘公園、海浜植物等保護地区、ピジターセンター、100年以上の歴史を持つ石狩灯台等、自然観察の最良の場です。

ハマナスの丘公園では、海浜植物（ハマナス、イソスミレ、ハマエンドウ、ハマボウフウ）の群落がいたるところに見られ、そこには草原性鳥類が多種生息し、多くのバードウォッチングの人々が観察に訪れています。

(石狩浜・石狩川河口)

【ペリカン目】

ウ科

ウミウ (夏) カワウ (夏)

【コウノトリ目】

サギ科

アオサギ (夏)

【ガンカモ目】

ガンカモ科

マガモ (留) コガモ (冬) カルガモ (留)
ヨキガモ (留) ヒドリガモ (冬) オナガガモ (冬)
オカハカ (冬) スズガモ (冬) クロガモ (冬)
コオリガモ (冬) ウミアイサ (冬)
カワアイサ (冬)

【ワシタカ目】

ワシタカ科

トビ (留) オジロワシ (冬) オオワシ (冬)
ケアシノスリ (冬) チュウヒ (冬)

【キジ目】

キジ科

コウライキジ (留)

【チドリ目】

チドリ科

コチドリ (夏) メダイチドリ (旅)
ムナグロ (旅) ダイゼン (旅)
シギ科
トウネン (旅) ハマシギ (旅) オバシギ (旅)
アオアシシギ (夏) キアシシギ (旅)
イソシギ (夏) ソリハシシギ (旅)
オオソリハシシギ (旅) ダイシャクシギ (旅)
チュウシャクシギ (旅) オオジシギ (夏)
カモメ科
ユリカモメ (旅) セグロカモメ (留)
オオセグロカモメ (冬) シロカモメ (冬)
カモメ (冬) ウミネコ (留) アジサシ (旅)

Ⅲ. 丘陵地の野鳥

(1) 高岡・五ノ沢・八ノ沢

市の北部、高岡・五ノ沢・八ノ沢は樺戸山地の南裾にあたり、100m内外の山地とそれに続く丘陵地域です。エゾマツ、トドマツ、カラマツ等の人口林、エゾイタヤ、シナノキ、ミズナラ、ハリギリ等の落葉広葉樹林で覆われた自然林です。

森林性の鳥類がたくさん見られます。

【ガンカモ目】

ガンカモ科	コハクチョウ (冬)	オシドリ (夏)
	マガモ (留)	コガモ (留)

【ワシタカ目】

ワシタカ科	トビ (留)	オジロワシ (冬)
-------	--------	-----------

【キジ目】

ライチョウ科	エゾライチョウ (留)
キジ科	コウライキジ (留)

【スズメ目】

ヒヨドリ科	ヒヨドリ (留)
レンジャク科	ヒレンジャク (冬)
ヒタキ科 (ウグイス亜科)	ヤグイス (夏)
シジュウカラ科	シジュウカラ (留)



コヨシキリ 【スズメ目】 ヒタキ科 (ウグイス亜科) 夏鳥
 平地の草原にすむが、人家近くのヨモギなどの丈の高い草の生えている空地でも繁殖する。繁殖期には、雄が枝先で特徴のある声で連続的に鳴く。
 スズメより小さく、色は褐色かかったオリーブ色で腹の色は背よりも淡い。目の上に白と黒の線がある。
 泣声は早口で、 ジョッピリリ ギョッ ギョッ チリリ



オオヨシキリ 【スズメ目】 (ウグイス亜科) ヒタキ科 夏鳥
 海岸や河川の水辺のヨシ原で繁殖する。
 頭から背翼の上面尾などは、淡褐色。下面は白色。
 泣声は、 ギョギョシギョ ケケスケケス カイカイシ



オオジュリン 【スズメ目】 ホオジロ科 夏鳥

ヨシ原のような草丈の高い湿った草原で繁殖する。雄は低木や枯草、電線などでさえずり、草の種子や昆虫類を食べる。

スズメくらいの大きさ、雄は頭と喉が黒く、背面は茶色で腹は白い。雌は喉の黒がなく頭は褐色。繁殖が終わると雄も頭と喉の黒がなくなり雌に似た淡褐色に変わる。

泣声は、 チッ チッ ジョッチッチィ



ハクセキレイ 【スズメ目】 セキレイ科 夏鳥

海岸、河川、農耕地、建築物の隅や草の根元などに営巣する。

スズメより少し大きく、スマートで尾が長い、雄の夏羽は頭から背中にかけて黒く腹は白いが胸に黒い斑点があり、目を横ぎる黒い線がある。雌は、頭から背中にかけて灰色。たえず尾を上下に動かしながら歩く。

泣声は、飛びながら チチッ チチッ



ノビタキ 【スズメ目】 ヒタキ科 (ツグミ亜科) 夏鳥

草原、農耕地などで普通に見ることができる。

あまり人を恐れないので、近寄ってゆっくり観察できる。

スズメより小さく、雄は顔と背から尾にかけて黒い、胸から腹にかけては白く胸の赤褐色が鮮やか。雌は頭から背面が黄褐色で地味な色、雄も繁殖期が過ぎると雌に似た色に変わる。 平地の草原に繁殖する。

地鳴きは、尾を上下に振りながら ジャッ、ジャッ

さえずりは、枝先などに止まり ヒーチョロリ チーロ



ノゴマ 【スズメ目】 ヒタキ科 (ツグミ亜科) 夏鳥

海岸から高い山まで、低木のある草原やハイマツ林に多く見られる。

繁殖期の雄は、高い草の上や牧柵の杭などに出て、尾をピンと上げてよくさえずる。

スズメより少し大きく体はオリーブ色。雄は喉に鮮やかな赤があり、雌の喉は白い。

泣声は美しい高い声で、 チュル チュル チュル チリリ



カ ケ ス 【スズメ目】 カラス科 留 鳥

山地の広葉樹林で繁殖し、秋になると群れをつくって、人里に降りて来る。餌台にきてトウモロコシ、パンくず、脂身などを食べる。

ハトぐらいの大きさで、頭が赤褐色でミヤマカケスとも呼ばれる亜種。

翼の青と黒と白のまばらが目立つ。ゆっくりとふわり、ふわりという感じで飛ぶ。

泣声はしわかれた声で、 ジェーイ ジェーイ 他の鳥の鳴きまねもする。



ダ イ ゼ ン 【チドリ目】 チドリ科 旅 鳥

海岸、河口、干潟でよく見られる。

体の上面は銀灰色に黒色のまだら模様がある。くちばしと足は黒色。

泣声は、 ピューウィー ピューウィー



ア ジ サ シ 【チドリ目】 カモメ科 旅 鳥

春と秋に海岸や河口、内陸の湖沼にも渡来する。群れで生活し杭や岩に止まったり干潟や砂浜に降りたりする。

ユリカモメより少し小さい。夏羽は頭上が黒く、背中が灰色で腹は淡い灰色。冬羽は、額と腹が白くなりくちばしと足は黒い。尾は深く切れ込んでいて飛んでいるとき目立つ。停空飛翔をしてから急降下して魚をとる。

泣声は飛びながら、 ギューイ ギューイ



オ オ セ グ ロ カ モ メ 【チドリ目】 カモメ科 留 鳥

海岸の岸壁や島で繁殖する。海岸や港湾に多く見られる。

ウミネコよりも大きく大型のカモメ。背中は黒い灰色、翼の先端の黒との差がはっきりしている。くちばしは黄色で先端に赤い斑点がある。

泣声は、 クワー キューイ



キ ョ ウ ジ ョ シ ギ 【チドリ目】 シギ科 旅 鳥

干潟、砂浜、湖沼の岸などに群れでいることが多い。

ずんぐりした体型で足もくちばしも短い。夏羽は背中が赤褐色で、顔と胸に黒い独特の模様がある。冬羽は褐色も黒い所もなくなり、全体に暗い褐色になる。

泣声は、 ギョ ギョ ギョ ゲレ ゲレ ゲレ



チ ュ ウ シ ャ ク シ ギ 【チドリ目】 シギ科 旅 鳥

水の中より乾いた所や水辺に近い草むらなどにいることが多い。

ハトよりも大きく、くちばしは長く下にわん曲している。頭に黒褐色の線があり、背中は黒褐色で淡褐色の模様がある。

泣声はかん高い声で、 ホイピピピピ ホイピピピピ



ホウロクシギ 【チドリ目】 シギ科 旅鳥

海岸や河口の広い干潟に渡来する。シギの中で一番大きい。

くちばしは非常に長く下に大きく曲がっている。背中は灰褐色で黒いまだらがある。腹部は淡褐色で腰が白い。

泣声は濁った声で、 ホイーン ホイーン



アカエリヒレアシシギ 【チドリ目】 ヒレアシシギ科 旅鳥

河口の干潟に入り、あまり人を恐れず近くで観察できる。

スズメより少し大きく、足は短いがヒレがあるので泳ぎはうまい。夏羽は頭頂部が黒く、えりが赤褐色で腹は白い。冬羽は赤味がなくなり暗い灰色に変わる。

泣声は飛び立つ時に、 キョツ キョツ キョツ



スズガモ 【ガンカモ目】 ガンカモ科 冬鳥

港湾や海岸近くの湖沼、河口で見られ大群で生活する。

頭は緑色、光沢のある黒色が首胸上下にある。尾筒は黒色、背中は白色に小さな黒い線が多数ある。

泣声は、クッ クッ クッ



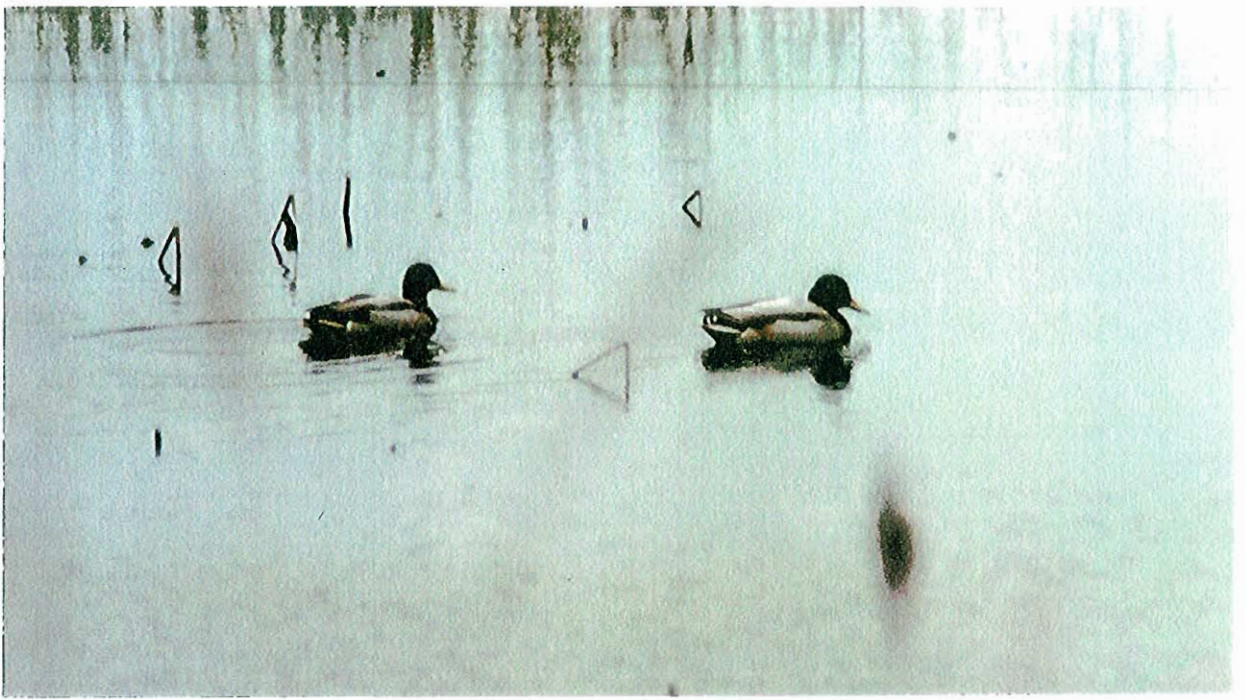
オグロシギ 【チドリ目】 シギ科 旅鳥

海岸や河口の干潟、海に近い湖沼や湿地に来る。

水中にくちばしを垂直に入れて餌をとっている。

尾は白ぼく先の方は太く黒色。翼も黒く幅広い白帯がある。

泣声は、キッ キッ キッ



マガモ 【ガンカモ目】 ガンカモ科 留鳥

海上や湖沼、川で生活する。

カラスより大きく、繁殖期の雄は『青くび』とも呼ばれ、頭から顔はつやのある暗緑色で首に白い輪がある。雌は褐色、くちばしはオレンジ色で中央部が黒い。雄のエクリプスは雌に似た色になる。

泣声は、 ゲェッ ゲェッ ゲェッ



オナガガモ 【ガンカモ目】 ガンカモ科 冬鳥

湖沼や河川など広い水面を好む。

マガモより小さいが、尾と首が長い。雄は頭が茶色で、首から胸にかけては白く、尾はピンと長い。雌の尾も他のカモの雌より長い。

泣声は、 プル プル プル



コハクチョウ 【ガンカモ目】 ガンカモ科 冬鳥
 オオハクチョウに似ているが少し小さく、くちばしの先の黒い部分が根本までとが
 って伸びている。

泣声は、 コオーコオー コホーコホー



アマサギ 【コウノトリ目】 サギ科 夏鳥

河畔や河口、湖畔にいることが多い。バッタなどの昆虫を食べる。

小型のサギで、夏羽は頭から顔、胸にかけてキツネ色をしている。冬羽は全身が白
 くなる。

泣声は、 グワァ グワァ グワァ



コウライキジ 【キジ目】 キジ科 留鳥

平地の草原、農耕地等で一年中見られる。冬は人里近くに寄り、餌台に来てトウモロコシ、パン、リンゴなどを食べる。

ニワトリぐらいの大きさとで尾が長い。雄には、首のところが緑で下の方に白い輪がある。雌は、首の緑もなく全身黄褐色に黒色のまだら模様があり地味な色。

泣声は鋭く、 ケーン ケーン



キジバト 【ハト目】 ハト科 夏鳥

低地や山地の広葉樹林やカラマツ等明るい林を好む。農耕地や庭でもよく姿を見る。最近では人家の近くでも生活することが多くなったようで、庭の木等でも繁殖する。ドバトと同じぐらいの大きさ。

泣声は、 デデッポーポー デデッポーポー



ノ ス リ 【ワシタカ目】 ワシタカ科 留鳥

カラスくらいの大きさと、上空を旋回していることが多い。

尾が短く、飛んでいるときにはトビのように先端の切れ込みが無く扇形。止まっている時は腹のあたりが白っぽく見える。

泣声は細い声で繰り返し、 ピー ピー ピー



カ ワ ウ 【ペリカン目】 ウ科 夏鳥

水中で餌を取りカレイ、小魚を食べる。

全体が黒い褐色がかっている。

泣声は、 グルルーン グロァー